末におえない悪者もいるが，多くは人工的環境を黙って緑化することによって，環境悪化の緩和に役立っているはずである．マスメディアが認識を改めてもらいたいものだ．なお最近の大村敏朗氏の私信によれば，本書277ページにあるオオブタクサの和名が久内清孝氏の命名によるとするくだりは，事実とは異なるとのことである，和名の命名や選択については規則があるわけではないが，われわれは情報交換を和名で行う場合がはるかに多く，どれがより広く使われるかは，それぞれの和名を与えた者にとっては由々しい問題だろう．こういうことは研究者の人間関係を知る資料となり得るので，分からなくならないうちに，いきさつを知る人が公表して記録にとどめてもらいたい．

（金井弘夫）

□筒井貞雄編：福岡県植物目録第**2**巻　福岡植物研究会　1992. pp.386. ¥8,000（送料込）.

1988年に第1巻（シダ植物）が刊行されているがその続編で，裸子植物，被子植物の一部（ヤマモモ科〜アブラナ科）がまとめられている．主体は254ページにわたる標本のリストで，産地，高度，採集者，番号，年月日，花か果実かなどが克明に記録されている．続いて5万分の1図の1/16のメッシュで，これらすべての植物の水平垂直分布図が示される．植物リストの配列はメッシュ単位でまとめられているので，分布点と標本データを比較するのが容易でありがたい．というのは，汎用のデータベースを作ろうとすると，産地の位置座標がわからないと役に立たないからである．最近は分布図のついた植物誌が普通であるが，この点についての気配りまでされているものはなかなか無い．上質紙を用いた立派な装丁で小人数でこれだけのことをやるのは，労力はもとより経費が大変に違いない．環境庁あたりがこういう仕事に援助を与えればよいのにと思う．環境庁の全国調査などは，そうした方がはるかに能率よくかつ信頼できるデータを集積できるはずである．福岡植物研究会の宛名は〒815　福岡市南区平和2–11–8 筒井方（振替福岡6–5060）である．

（金井弘夫）

□福岡植物研究会：**福岡県植物目録**（2）60pls.＋385 pp. 1993. 〒815 福岡市南区平和2–11–8 筒井貞雄方．¥8,000（送料共）.

目録（1）の「シダ植物」発行以来5年，待望の（2）が出版された．これには種子植物の約4分の1，すなわち裸子植物亜門と，被子植物亜門の双子葉植物綱の離弁花類の一部（ヤマモモ科からアブラナ科まで）が含まれている．**巻頭**にタンナトリカブトの美しい図，続いて花や群落の天然色写真124個，基準標本を含む腊葉の写真12個，解剖図付き線画8個が，合計60ページに収まっている．

本文**第1部標本目録**は51科・412種が分類順（科の中の属・種の配列は学名のABC順）に記録されている．各科の最初に総論的な種類の紹介などがあり，直ちに各種についての記事に移る．記事の大部分は標本の産地で，ほとんど隙間なくページを埋めている．産地の記載法は，5万分の1［地形図名］と，それを縦横4つ割りした16個の小区画番号（11……44）を並記して見出しとし（例：［**背振山**］**23**），その区域内の産地を列記する．地名は詳しく，標高までいれ，採集者氏名，年月日，標本番号，花や果実のことなども入っている．産地の他に〈**ノート**〉には，県内での分布状況，林内・林縁・渓流沿いなど生態のこと，変種・品種・他種との雑種，近縁種との区別点，などの説明がある．これらの他に〈**メモ**〉として分類学上の意見などを述べた項もある．

第2部は**分布図**で，毎種1図の412図が用意されている．各図は等高線の入った地形図で，上記の小区画内に産地がある場合に黒丸が入っている．地図の下の枠組は垂直分布で，上の地図を南北に見通した形になっていて，100m単位で小点が存在を示している．

この目録（2）の資料になったぼう大な数の標本は，福岡植物研究会々員57名の方々および非会員66名の方々の調査・採集・研究によるものだそうで，本巻を執筆された14名の方々と共にご努力は大変だったことと深く敬意を表する次第である．

（伊藤　洋）